# 課題研究論文

スポーツ学の10年

## 特集にあたって

2003年４月に，我が国で初めて，スポーツの名称を冠した大学として誕生した本学も，本年度で開学10年目を迎えることとなった．研究紀要の編集を担当している図書・学術委員会では，昨年来，この節目を意識して，「スポーツ学」に改めて焦点を当てようと考えた．具体的には，昨年度，「スポーツ学再考」というテーマのシンポジウムを開催し，また，課題研究論文の特集テーマを「スポーツ学再考」とし，シンポジウムでの議論等も踏まえた形で各コースよりご寄稿いただくなど，様々な領域の専門性やそれを超えた普遍性の双方に目配せしつつ，スポーツという文化と向き合うスポーツ学の理念や概念の再確認，イメージの共有化を図る一助となることを試みた．

本年度は，その流れを汲み，「スポーツ学の10年」という特集テーマを設定することとした．研究紀要９号の新井論文にも示されているように，「現代の体育の内容が発展的に拡大し，従来の体育学の範疇に収まりきれなくなってきた」ことを背景に，「新たな研究の体系的な枠組みとして」提唱されるようになった「スポーツ学」を追究していくことは，開学以来，「新しいスポーツ文化の創造」を追い求めてきた本学にとって，ある意味では必然的な，大事な使命と言ってよいのではないかと考えられる．今号では，全国に先駆け，スポーツ学部を開設し，生涯スポーツ学科，競技スポーツ学科を擁する本学に集ったメンバーが，スポーツ学の研究，実践の先駆者として考えてきたこと，実践してきたことを踏まえつつ，「スポーツ学の10年」という共通テーマにかなう内容であればどのような内容でも，すなわち，これまでの研究，実践の成果をま

とめてもよし，次の10年も展望しながら，これから進んでいくべき方向を考えてもよしと，思いや考えを自由に発表して戴きたいと考え，内容をあえて限定することなく，各コースに執筆をお願いした．

特集で取り上げられている諸論文は，そうした意味で，いずれも興味深く，オリジナリティあふれたものであり，これらが一つの導火線となって，これからの「スポーツ学」の一層の充実，発展につながっていくとともに，このことも一つの契機として，本学が，「スポーツ学」のけん引役として大きな力を発揮していくことを楽しみにしている．

高　柳　真　人